

斑点米カメムシ類発生注意!!

～今年の薬剤防除は“2回”を基本にお願いします!!!～

●斑点米カメムシ対策特集

昨年は斑点米カメムシ類の被害により斑点米が多発しました。今年もすくい取りによる斑点米カメムシ類の発生が多く確認されています。

薬剤防除と畦畔の草刈りを組み合わせて斑点米を防ぎましょう。

●主なカメムシの特徴と防除概要



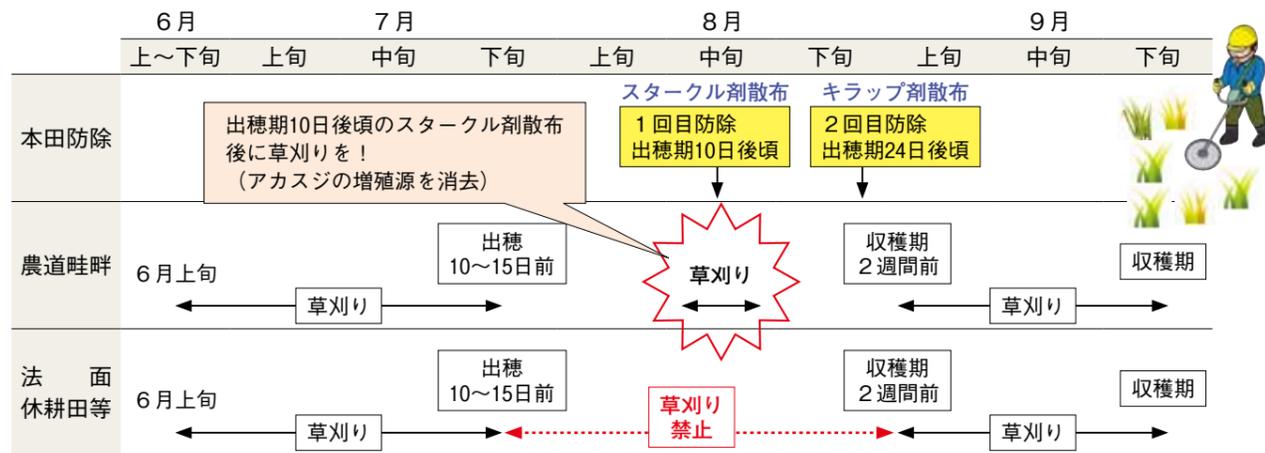
体長：成虫で4.6～6mm程度
特徴：ノビエ、ホタルイ等のカヤツリグサ科の穂に産卵する。稲にはほとんど産卵しない。



体長：成虫で5～6mm
特徴：水田内で一生を過ごし、稲の葉鞘に産卵する。

～耕種防除～

・アカスジカスミカメはノビエやホタルイの雑草の穂に産卵し、増殖するため、出穂期10日後頃の茎葉散布剤散布後5日以内に畦畔や農道の草刈りを実施し、アカスジカスミカメの増殖地を無くしましょう。この期間を過ぎるようであれば草刈りは行ってはいけません。その後は収穫2週間前までは草刈りはしません。



～薬剤防除～

・通常の防除は出穂期10日後頃の1回散布を基本としますが、水田内にノビエやホタルイが発生しているほ場や牧草地、休耕田が隣接したほ場、畦畔農道に刈残しがあるほ場ではカメムシのすみかとなり1回の防除では防ぎきれませんので、出穂期10日後頃のスタークル剤散布後14日後頃にキラップ剤を追加散布しましょう。

・散布計画の策定と薬剤の準備は早めに行いましょう。

散布時期	薬剤名	希釈倍率/散布量 (10aあたり)	適正使用基準	
			使用時期	使用回数
出穂期10日後頃	スタークル粉剤DL	3kg	収穫7日前まで	3回以内
	スタークル液剤	1,000倍/60～150%		
追加防除 出穂期24日後頃	キラップ粉剤DL	3～4kg	収穫14日前まで	2回以内
	キラップフロアブル	1,000～2,000倍/60～200%		



平成28年8月発行

監修：仙北地域振興局農林部農業振興普及課

JA秋田おぼこ

登熟期間の高温は水管理で対応!

～出穂後は水管理・いもち・カメムシ対策に重点を置きましょう～

これから稲は出穂を迎えます。去年は出穂以降の日照不足による充実度不足や斑点米カメムシ類の影響による被害粒の発生がありました。出穂後は水管理と病害虫防除に重点を置いた栽培管理を行いましょう。

●水稻定点調査結果 7月25日現在 (仙北地域振興局農林部農業振興普及課)

	草丈 (cm)	茎数 (本/m ²)	葉数 (葉)	S P A D (葉緑素計値)
本年値	69.0	486	11.7	38.0
平年値	73.9	472	12.2	37.9
平年比	93%	103%	-0.5	100%
前年値	68.3	535	12.4	40.6
前年比	101%	91%	-0.7	94%

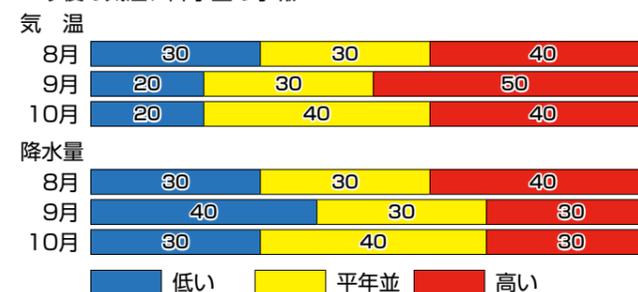
あきたこまち10地点

○定点調査結果

7月25日現在の「あきたこまち」の生育は、草丈は69.0cmでやや短く(平年比93%)、茎数は486本/m²で平年並(平年比103%)、葉色(SPAD値)は38.0で平年並(平年比100%)でした。葉数は11.7葉で、葉数から見た生育はやや遅い(平年差-0.5葉)状況です。ほ場により生育差がありますが、出穂期は、8月5日(平年8月3日)頃と予想されます。今後は急激な気象変化に注意し、適切な水管理に努めましょう。また、仙台管区气象台によると、8月は高温が予想されます。農作業時はこまめに水分・塩分補給を行い、体調の悪い時は無理をせず休憩をとるようにしましょう。

●今後の気象経過 今後の気温、降水量の予報

<今後の気温、降水量の予報>



7月25日に仙台管区气象台から東北地方3か月予報が発表されました。

8月は平年と同様に晴れの日が多く、降水量は平年並みか多くなると予想されています。

9月は気温が高くなる見込みです。

この結果からみると今年は高温登熟が懸念されます。こまめに天気予報をチェックし、適切な水管理、病害虫防除を行いましょう。

園芸施設共済 台風シーズン到来!今すぐご加入を!

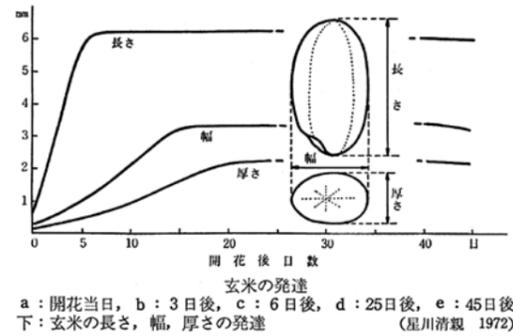


注意
台風の進路が発表されたときなどの
かけ込み加入はできません。

参考)4間×10間のハウス
28万9千円の補償金額
掛金は4,260円(12ヶ月)です

●出穂期からの水管理

- ① 出穂当初は水を多く必要とする時期なので、出穂後10日間は5～6cm程度の水深で湛水します。その後は2～3cmの浅水、間断かん水を行い登熟の促進をはかります。(右図参照)
- ② フェーンなど乾燥した風が強く吹送する場合は湛水にします。
(登熟期に乾いた強風が吹くと予想される場合は特に注意が必要です)
- ③ 落水の時期は、概ね出穂後30日とします。早期に落水すると葉色の低下、枯れ上がり、根の機能減退により収量、品質、食味が低下する場合がありますので注意してください。



●白粒・胴割れ粒対策

気象庁より7月25日に発表された3か月予報では8月は気温が高く、高温登熟となることが予想されており、白未熟粒の発生が心配されます。気温が30℃以上になる日は、流水量により、かけ流しや水の入れ替えにより地温を下げ、根の機能減退を防止しましょう。

○高温登熟被害粒の発生要因と技術対策

項目	気象的要因	栽培的要因	技術対策
白未熟粒	乳白 心白 出穂後4～20日頃の高温	籾数過多	籾数制御 かけ流し 夏期常時湛水
	背白 腹白 出穂後16～24日頃の高温	登熟期後半の肥切れ	穂肥 かけ流し 夏期常時湛水
充実度不足粒	登熟期間の高温	登熟期の肥切れ	穂肥 かけ流し
胴割れ粒	出穂10日間の高温	登熟期の肥切れ 早期落水 刈り遅れ、過乾燥	穂肥 かけ流し 夏期常時湛水 適期刈り取り、2段乾燥

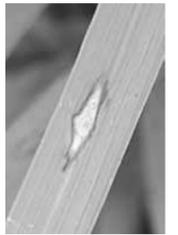
※かけ流し等は、水不足などの水利条件にもよりますので、流水量を確認し行いましょう。

●穂いもち対策 穂いもちの発生に伴う穂いもち防除について

今年はいもち病の感染に好適な日が多く、穂いもちに感染しているほ場やズリコミ症状がみられるほ場もあります。穂いもちが発生しているほ場では穂いもちに感染する可能性が非常に高くなるため穂いもち防除が必要となります。

・穂いもちの発生が全く認められず、周辺の発生田からの伝染の影響のないほ場では、防除の必要性は低くなります。ただし、穂いもちが多発しているほ場が隣接している場合などは、出穂期～7日後にラブサイド剤の茎葉散布をしてください。

・穂いもちが発生しているほ場では出穂直前か出穂期にビーム剤を散布し、その後傾穂期にもラブサイド剤の追加防除を行い穂いもちへの感染を防ぎましょう。



穂いもち



穂いもち

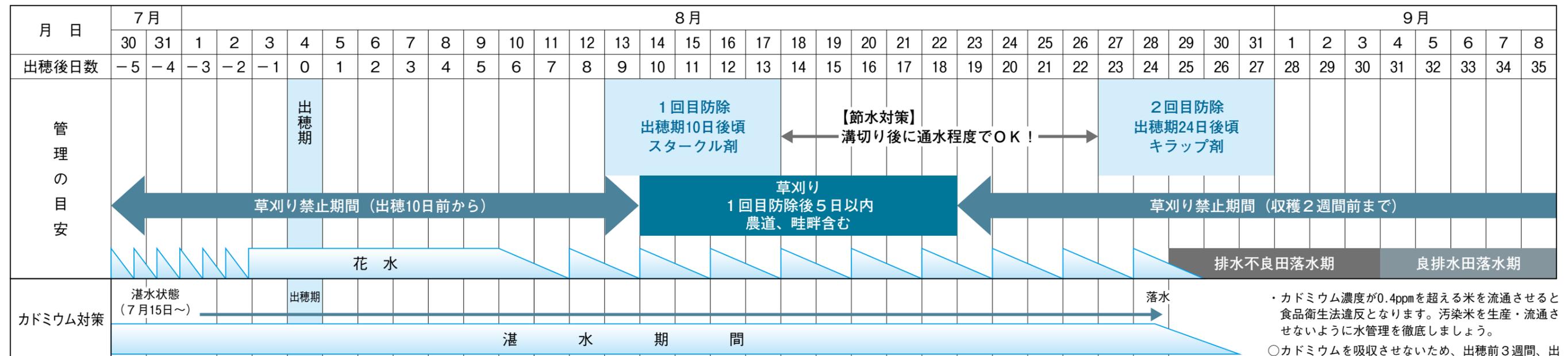
無人ヘリ以外の防除方法について

	薬 剤 名	希釈倍率/散布量 (10aあたり)	適 正 使 用 基 準	
			使用時期	使用回数
予防剤と治療剤の 混 合 剤	ブラシン粉剤DL	3～4kg	収穫7日前まで	2回以内
	ノンプラス粉剤DL			
	トライ粉剤DL		収穫14日前まで	
	ブラシンプロアブル ノンプラスフロアブル		1,000倍/60～150 μ g/L	
予 防 剤	ラブサイド粉剤DL	3～4kg	収穫7日前まで	3回以内
	ビーム粉剤DL			
	ラブサイドフロアブル	1,000～1,500倍/60～150 μ g/L		
	ビームゾル	1,000倍		

※フサライドの本田での総使用回数は3回以内なので注意する。

(フサライドはラブサイド剤、ブラシン剤に含まれる成分です。総使用回数に注意してください)

※ビームゾルは傾穂期以降に散布すると薬害を生じることがあるため注意が必要です。



・カドミウム濃度が0.4ppmを超える米を流通させると食品衛生法違反となります。汚染米を生産・流通させないように水管理を徹底しましょう。

○カドミウムを吸収させないため、出穂前3週間、出穂後3週間の計6週間は常時湛水管理を行い、田面が空気に触れないよう管理してください。(田面が露出すると土壌が酸化し、カドミウムが吸収されやすくなります)。